

## 「 ゆめ広場～出会いとこれから 」

この4月24日には丸2年を迎えたゆめ広場ですが、このたび運営担当者を交代することになりました。活動の感想としては、ゆめ広場で出会った多くのみなさまとの場面と、様々な感情が混ざり合って言葉が見つからないのですが、担当者を交代するにあたり、活動の日々を振り返り、月平均1000人を超す多くの老若男女の来場者の方々に育てられたスタッフの一人として、印象に深かったことを2～3お伝えしたいと思います。

ゆめ広場は「民設&民営のフリースペース」としてスタートしましたが、スタッフやボランティアはどこまでが活動なのか、に始まり、チラシやポスターの取り扱いなどスキルも知識もなく、疑問や不安の答えは毎日の活動の中から導き出し、ひとつまたひとつと積み重ねてきた日々でした。

ゆめ広場の主な運営活動は、毎日の午後のおよそ半を「見守り」として過ごしました。また講座や会議などで「見守り」活動が出来ないとき、「居るだけボランティア」として支えてくださったMさんのおかげで、わたしたちスタッフは他の多くの活動に参加することもできました。

わたしの思うゆめ広場にとっての最大の収穫は、スタッフの大人たちと共に活動に関わってくれた大学生たちと、ゆめ広場で待ち合わせや受験勉強&勉強疲れの休憩の場所として活用していた高校生たちの成長を間近に感じる事ができたことです。

ゆめ広場に出会った顔見知りの高校生たちの多くがこの春、大学や専門学校に進学し、また就職をしています。高校生だった彼らの進路や夢についての話を聞きながら、市民活動についてこちらが話すこともありました。

現代社会では若い世代と大人が関われる場はほとんど見当たりません。しかも、見知らぬ間柄ではなおさらのことです。そんな中で、ゆめ広場は若い彼らを見守ることのできる数少ない特別な場所として定着してきました。

また、大学生ともなれば彼らならではの視点での自主性や取り組みに立ち合わせてもらえたことで、わたしたち大人も感動やエネルギーを受け取ることができました。

例えば、幼児教育を専攻するAさん。通学途中で見つけたからと、ゆめ広場をフィールドワークの実習先に選んでくれたのです。そして、本人と大学から依頼を受け、社会教育の現場としての1年間のプログラムを用意してわたしたちスタッフと共に体験しました。

また、私たちが関わっている北九州市民カレッジでは、「ひびきの」の大学院生Nさんには講師としてご登壇いただきました。彼はその後も積極的に活動を展開していて、「キタキュウソウル」の仕掛け人の一人としても大活躍です。

そしてもう一人。現役で難関の公務員試験に合格の快挙を達成したEさん。出会った初めの頃は、差し入れのおやつにも手を伸ばさないような遠慮がちなお嬢さんでしたが、ゆめ広場には大学への通学の行き帰りに事情の許す限り立ち寄り、私たちとの活動を進めてくれました。彼女には昨年、八幡西区ボランティアフェスタでの発表のときも学生のリーダーとして、現在展開中の折尾マップの制作やこのフレスターの編集でも大活躍の彼女には感謝でいっぱいです。

現在もこれからも、大学生や留学生との出会いや関わりが展開されるゆめ広場に、多くの若者が参加し、成長し、社会へと巣立っていくプロセスに関わり、共に成長できる自在な空間であることを願ってやみません。

最後に、拙いわたしたち担当者をこれまで支えてくださったみなさまに深く感謝いたします。

ありがとうございました。

(ペンネーム： りとるママ)